

(参考1)

有害性総合評価表

物質名：ベンゾ[e]フルオラセン

GHS 区分	評価結果
ア 急性毒性	急性毒性データなし GHS 区分、：分類できない
イ 皮膚腐食性／ 刺激性	皮膚腐食性／刺激性：報告なし GHS 区分：分類できない 根拠：
ウ 眼に対する重 篤な損傷性／ 刺激性	眼に対する重篤な損傷性／刺激性：報告なし GHS 区分：分類できない 根拠：
エ 皮膚感作性又 は呼吸器感作 性	皮膚感作性：報告なし GHS 区分：分類できない 根拠： 呼吸器感作性：報告なし GHS 区分：分類できない 根拠：
オ 生殖細胞変異 原性	生殖細胞変異原性：やや疑われる GHS 区分：2 根拠：in vivo somatic mutagenicity test (チャイニーズハムスターの骨髄を用いた染色体異常試験) で陽性。In vitro mutagenicity test (サルモネラ復帰変異試験) でも陽性。ただしin vivoでの結果は一報のみで、確認するデータが望まれる。 ⁴⁾
カ 発がん性	発がん性：ヒトに対する発がん性が疑われる GHS 区分：2 根拠：IARC 2B (参考：EU 2) 閾値の有無：閾値なし 根拠：ネズミチフス菌 (サルモネラ菌) に対する変異原性、チャイニーズハムスター骨髄細胞に対する染色体異常の誘発が報告されている。 ⁴⁾ 参考：カリフォルニア EPA の資料によるユニットリスクを用いて算定した場合は、次の値となる。 RL(10 ⁻⁴)=9 × 10 ⁻¹ μg/m ³ 、(9 × 10 ⁻⁴ mg/m ³ 、9 × 10 ⁻⁵ ppm) UR= 1.1 × 10 ⁻⁴ per μg/m ³ 根拠：カリフォルニアEPAの資料 ⁵⁾ に記載された吸入ばく露によるユニットリスク (UR)の値 1.1 × 10 ⁻⁴ [per μg/m ³]から吸入ばく露における過剰発がん生涯リスクレベル(RL(10 ⁻⁴))に対応する濃度を次の計算式を用いて算出した。 RL(10 ⁻⁴) [μg/m ³]=10 ⁻⁴ ÷ UR[per μg/m ³]、RL(10 ⁻⁴)=10 ⁻⁴ /0.00011=0.9 なお、カリフォルニアEPAのUR算出根拠 (呼吸量=20m ³ /日、生涯ばく露=75年) を当リスク評価事業における前提条件 (労働時間呼吸量=10m ³ /日、労移動日数=240日/年、労働年数=45年、) に基づいて換算すれば以下となる。 労働補正RL(10 ⁻⁴)=4.5 × 10 ⁻³ mg/m ³ (4.5 × 10 ⁻⁴ ppm)

